

2016年11月8日/図書館総合展フォーラム第3会場（パシフィコ横浜）

大学学習資源コンソーシアム（CLR）フォーラム

「高等教育における著作物利用環境整備に向けて」

参加者アンケート

当日参加者：90名 アンケート回収数：51名

大学学習資源コンソーシアム（CLR）では、大学関係者が、学習、教育における電子的学習資源の製作および共有化を促進させる体制の構築と著作物の円滑な利用環境を整備し、我が国の高等教育・学術研究の発展に寄与することを目的とし、高等教育における著作物の教育目的利用にかかる関係団体等との調整、必要となるシステム基盤の検討などに取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のフォーラムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

1. 本日のフォーラムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・著作権。特に異時公衆送信の検討状況が分かってよかったです。
- ・「高等教育の公益性を疑う」ところから、議論しないと、この問題は解決しないということ。
- ・お金の問題
- ・文化審議会での討議の現状などを知ることができた。
- ・問題は何となく意識していたのですが、改めてお話を聞きしてよかったです。
- ・著作権法について新しい解釈、法整備が進めば大学での利用教育も変化していくと感じた
- ・ICT 教育における著作権について、著作権の権利処理の要否が判断できないという要因がよくわかった。どの大学も要因はにていると感じた。出版者側の意見もとてもよく理解できた。高等教育にはコストがかかるのは当然だと思った。
- ・著作物利用のコンソーシアムがあること。いざれは教科書も電子化する考えがあること。
- ・権利者側の意見が聞けてよかったです
- ・文化審議会著作権分科会の存在と大枠の活動、環境整備が結局すんでいないところがわかった⇒内容はわかりにくかったです
- ・難しいお話で「理解できた事」はありません。
- ・著作権の現状（利用環境について）
- ・高等教育機関における著作権上の課題。出版者の意見
- ・今村先生のお話。審議会での検討状況を知れました
- ・出版社の姿勢が決して後ろ向きではなかったこと。
- ・教育と公益性についての法律的、出版者側の意識が理解できた。
- ・出版者側（権利者側）からの意見も聞くことができ、どのように権利者側が考えているのかがわかりました。
- ・著作権利用のガイドラインの策定の必要性と利用者と権利者とのすり合わせの必要性を強く感じられました。
- ・現状を知ることができた。
- ・部分的なコンテンツの組みあわせをリーズナブルな価格で提供できるようなしくみを考えることが大事との土屋先生のお話はまさにその通りだと思いました。
- ・教育の特殊性、日本の特殊性
- ・著作権の制限について、文化庁の講習で、うまく理解できなかったが、結局広大なグレーゾーンがあるんだとわかった
- ・土屋さんの指てきはちょっと…笑える
- ・教育のための利用＝公益性 ということについて、それが権利制限にあたらないという風潮であること。
- ・現在どのような議論が行われているのか分かった。
- ・著作権法31条には親しみがあるが、35条や32条が問題になるような話題が私にとっては目新しいものだった。

- ・教育現場としては、権利制限ありきなのがよくわかった（竹内・今村両氏の発言）
- ・教育目的で発行していないものを教材としてICT環境で利用したい場合は、独創的な授業を模索する先生にはよくあることだと思うが、なかなか難しいものなのかなと思った。
- ・審議会の検討状況
- ・著作権を有する側としての出版社の方の意見・主張が、大学の講義ではなかなか聴けないことなので、興味深かった。現在行われている話し合いの内容がわかつて良かった。
- ・通常、依頼ベースで個別の許諾申請をしていますが、多大な手間がかかるため、大学ではどのような対応をされているのか知りたくて参加しました。問題点と現在の議論の状況が理解できました。
- ・権利制限についての議論の方向性について理解できた。
- ・文科省の動きは社会実態に追いつけていないのでは。長い時間をかけて議論をしている間に、TPPとの関係は整合性がとれるのか？
- ・審議に時間がかかっているなあ、と漠然と感じていましたが、土屋先生がはつきり「進んでいない」と言って下さり、問題点が何か見直せそうです。
- ・許諾、ライセンスなどの課題、状況
- ・高等教育の公共性、といった大きな観点を問うところまで話が聞けた。現状について多方面から概略が分かって良かった。
- ・文化庁での審議の様。教育の公益性は自明でない。

## 2. 本日のフォーラムで、よくわからなかつたこと、疑問に残つたことがあればお書きください。

- ・書籍は買われることで著作権者に著作者に印税という形で利益が発生すると思うけれど、契約ライセンスだと使われなくてもライセンス料が発生して使われる金額は誰のためのものか？
- ・現場（職場）との具体的な関係性
- ・立場が違うと意見をすりあわせるのが難しいと思った
- ・公益性ということであれば、義務教育の小～中ではないか？大学で使う分には、費用が発生するのはいたし方ないかもしない。
- ・スライドの文字数が多く、読まれることが多かったので要点が瞬時にわかりにくかった。
- ・ライセンスを潰さないための保障金制度が、日本で育つのでしょうか？
- ・著作物をあつかう現場は、どうすればいいか。仕事をする環境を早く整備してほしい
- ・医学書院さんを講師にお迎えしたこと。展望がわからなかつた。
- ・しかし、部分的なコンテンツの組みあわせについての価格設定をしてもすべての大学でルールを守れるだろうか。特に私学は非常勤講師が多いですし、高齢の教員も多いので難しいかもしれません。
- ・今後どうなるのか、方針はまだ定まっていないのか？
- ・説明が早くついていけない部分があった。資料がほしい。
- ・今村さんの内容をもっと詳しく知りたい
- ・一つの団体が集中して管理することは独占ともとられかねないのでは？
- ・補償金やライセンスの制度を導入したとして、それ以前と比べて権利者はどの程度もうかるのか。出版の衰退がくいとめられる程儲かるのか？
- 。権利者側が配信サービスを提供していても、その商品について権利制限をするのか。教育という公益と経済活動という法益についてどう考えるのか。
- ・Moocの扱いが少し違っているようだったが、何故かという点が疑問だった。
- ・権利者側がしっかりした仕組み（統一）が作れていないことが最大の問題なのではないか。
- ・費用、許諾、ライセンス、その他、どれ程のお金の問題となるのか

3. 今後も大学学習資源コンソーシアム (CLR) ではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・議論の進展に合わせて、同テーマのセミナーを期待します。
- ・検討状況、議論内容ばかりでなく、実際利用するにあたり、どういう許諾制度がベストなのか？提示してほしい
- ・オンライン化（電子化）されていない著作物の電子化における許諾について。
- ・楽譜、視聴覚資料など、特殊な資料形態をもつものの著作権処理について。
- ・CLR に加入している大学と、そうでない大学とで、教育・授業の中身はどのくらい変わってくるのか。面白い教材が使えるのか。
- ・著作物利用と著作権の尊重についての調整。金原優氏、土屋俊氏のお話をもう少し詳しく拝聴したいと思いました。
- ・テキストのオープン化推進
- ・教材オープン化。そのような教材の活用について
- ・実例（大学・学校の教材利用）を挙げて頂き、現状どのような扱いが適切だと考えられるのかレクチャー頂きたい。

4. 本日のフォーラムの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・パネルディスカッションの内容については、まあ、パネリスト同士で後でやってもらいたいともいいかと思います。授業料について「アメリカ」よりという比較はいつも教育関係者の口から出るようになりますが、その比較の意味があるでしょうか？今回のテーマには関係ありませんので、お見捨ておきください。
- ・パネルディスカッションが非常に刺激的で興味深かったです。もちろん、著作物の利用について考えていくことは大切ですが、それ以前に昨今議論の高まっている高等教育について根本から再考、再定義する必要があると考えました。高等教育は大きな岐路に立たされていると思います。
- ・広い意味での話として勉強になったが、図書館として日常的にぶつかる問題など取り上げていただければと思う。
- ・資料は当日に配付してもらいたい。
- ・大学教員は著作権についてある程度知識もあるし、利用教育も可能だが、小～高の教員に対しては難しいと思う。内容を細かく理解しなくとも仕組みで自動的に著作権処理ができると良いと思う。オープンアクセスでも良いが、しっかりお金を払いたいと思う。
- ・公益性の定義について、立場が変わると、全く正反対の意見になるのだとつくづく感じる。個人的には高等教育でお金がかかるのは当然だと思っているので、土屋さんのご意見には、合点がいきました。
- ・高等教育における著作権に関する「今」が伝わり、動向が気になりました。
- ・パネルディスカッションがおもしろい。もっと時間を増やしては？
- ・学生や教員から一定金額を徴収するのは難しいと感じた。大学で支払って自由に使ってください、になりそうな気がする。
- ・資料は当日に配布していただけだと有難いです。（見づらいスライドあり）。
- ・スライドが暗く、やや見づらかったです。
- ・ディスカッションがそもそも論に終始し、前向きで実践的な議論がほとんどなかったように思う。
- ・著作権という意識は大学において教員、職員、学生にきちんと理解させ、教育の質の向上とともに著作者、出版社の立場も考えてよりよい環境が整備されることを期待したいです。
- ・「自明か」
- ・様々な立場の方の本音がきけておもしろかったです
- ・面白かったです

- ・配付資料がほしかったです。（発表者の内容についてメモが大変です）
- ・あらかじめパネルディスカッションで、各自の意見を要旨でもいいので文章化して欲しいと思います。時間がないと早口になってしまふので、聞きとりづらい部分がありました。
- ・土屋先生が素敵でした。
- ・コピーは配布したら回収が必要です。金を払って自由に使うという流れを具体的な議論で進めて下さい。
- ・大変興味深く、またおもしろく拝聴できました。有難うございました。
- ・レジュメがほしいです。あとでDLできても、すすむスピードが速かったです。／権利制限を明らかに超える利用実態→違法行為の自白ですね。／法の内容を理解できない学生や先生がいることがこわい。→著作権法無法地帯はそのとおりではないか。／著作権軽視の向きが強い。教育機関側の考えが固まってしまっては、協議は困難。／公益性が自明なのかという土屋先生の発言に、改めて考えさせられた。
- ・異なる立場の方のお話が伺えて興味深かったです。
- ・パネルディスカッションがスリリングで面白かったです。
- ・大学における著作権処理の問題が理解できました。
- ・土屋先生の“公益性”に関する指摘は考えさせられた。
- ・教育への投資について、国はさらに強化すべきは賛成。その上で「教育を受ける側」（学生、その保護者）がもっと投資すべき。
- ・出展者としてパネルディスカッションを準備する立場が多かったので（いつもハラハラ）、今回は参加者として非常に楽しく（？）拝聴しました。
- ・もっと時間があつてもよかったです。
- ・置かれる立場により、理解度・扱いがかなり異なるテーマだと思っています。それらのルール化がこれからも課題になり続けると思います。

5. 次の（1）、（2）について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 大学学習資源コンソーシアム（CLR）加盟機関からの参加(2) b. CLRには未加盟(23)  
印なし(26)
- (2) a. 大学教員(0) b. 大学職員（図書館職員を除く）(2) c. 大学図書館職員(33) d. 出版関係(3)  
 e. 大学図書館以外の図書館職員(2) f. 学生(2) g. その他(7) 印なし(2)

6. このフォーラムを何で知りましたか？

- a. Web（大学学習資源コンソーシアム）(4) b. Web（図書館総合展）(19) c. 図書館総合展チラシ(31)  
 d. その他(1)

ご協力ありがとうございました。